

学校法人 神戸薬科大学

第3期中期計画(2022～2026年度)

【はじめに】

神戸薬科大学（以下「本学」という）では、これまで教育と研究の両立を基盤として、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師の養成を行い、数多くの優れた薬剤師、研究者、専門職能人などの社会に貢献できる人材を世に送り出してきました。

2016年に作成した第1期中期計画（2016～2020年度）は、全教職員が目標達成に向けて着手した結果、概ね達成することができましたが、一方で引き続き検討及び実行すべき課題も明らかとなりました。特に、18歳人口の減少に伴う志願者の減少は本学のみならず大学経営における普遍的な問題の一つとしてその対応が求められています。2019年作成した第2期中期計画（2019～2021年度）は、マネジメント改革を目標に取り組み、総合教育研究センターの設立、ガバナンス・コードの策定、新カリキュラムの構築、キャンパス整備計画の開始などの成果をあげることができましたが、世界的なパンデミックのため大きな試練を迎えた時代ともなりました。

2021年度で第2期中期計画は終了年度を迎えます。2022年度から始まる第3期中期計画では、第2期中期計画の取り組みを引き継ぎ、2020年4月1日に定めた「神戸薬科大学ガバナンス・コード」の定めに則り、教職員の意識改革とガバナンスの徹底に取り組みます。教育プログラム面からは新たな教育カリキュラムをスタートさせ第3期中期計画の柱とします。教育環境整備ではSDGsを意識した新棟建築と現校舎跡地の整備を盛り込んだキャンパス整備計画の実行を引き続き第3期中期計画の柱とします。全教職員が「改革」「変革」及び「ガバナンス強化」への高い意識を持ち、問題解決に取り組む期間とします。

本学は「大学の理念」を達成するため、「神戸薬科大学学則」並びに「神戸薬科大学大学院学則」に「目的」を定め、さらに「3つのポリシー」を設けています。この第3期中期計画は、「大学の理念」「目的」「3つのポリシー」を基礎として作成しています。また、第3期中期計画は、「神戸薬科大学ガバナンス・コード」の定めに従い、2022～2026年度の5年間としました。中期計画策定の基礎となる「大学の理念」「目的」「3つのポリシー」を、本中期計画の後半に掲載しました。「神戸薬科大学ガバナンス・コード」は大学ホームページに公開していますので、あわせてご覧ください。

【第3期中期計画策定の方針】

「神戸薬科大学ガバナンス・コード」の定めるところにより、計画の策定と実現に必要な取組みについて以下のことを基本方針としました。

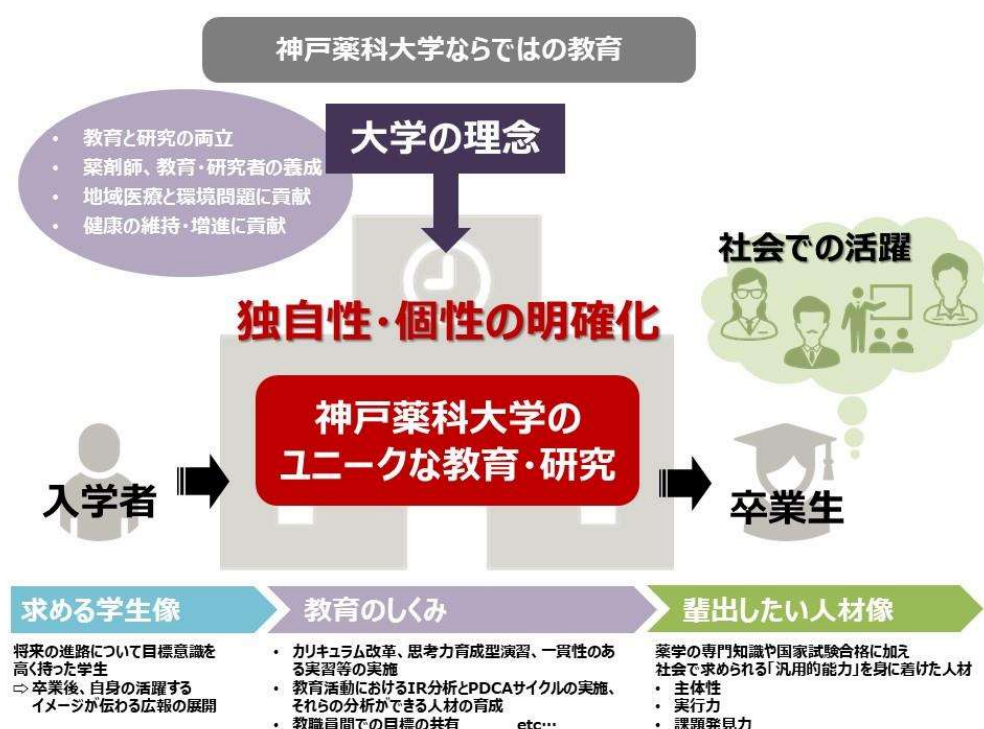
- ① 安定した経営を行うために、認証評価を踏まえて中期的な学内外の環境の変化の予測に基づく、適切な中期的な計画の検討・策定をします。
- ② 中期的な計画の進捗状況、財務状況については、大学運営会議で進捗状況を管理把握し、法人運営・大学運営に努めています。
- ③ 財政的な裏付けのある中期的な計画の実現のために、学外理事を含めた経営陣全体や、経営陣を支えるスタッフの経営能力を高めていきます。
- ④ 改革のために、教職協働の観点からも事務職員の人材養成・確保など事務職員の役割を一層重視します。
- ⑤ 経営陣と職員が中期的な計画を共有し、職員からも改革の実現に際して積極的な提案を受けるなど法人全体の取組みを徹底します。
- ⑥ 中期的な計画に盛り込む内容
 - (ア) 大学の理念に基づき育成する具体的な人材像とこれを実現する教育目標
 - (イ) 教育改革の具体策と実現見通し
 - (ウ) 経営・ガバナンス強化策
 - (エ) 法人・教学部門双方の積極的な情報公開
 - (オ) 財政基盤の安定化策
 - (カ) 入学定員確保策
 - (キ) 教育環境整備計画
 - (ク) グローバル化、ICT 化
 - (ケ) 計画実現のための PDCA 体制

【第3期中期計画が目指す神戸薬科大学の在り方】

本学は2022年度に創立90周年を迎えます。この間に輩出した19,000人を超える優秀な卒業生、修了生は、薬学・医療に関連する幅広い分野で、人類の健康と福祉のために活躍し社会に貢献しています。今後も学校法人神戸薬科大学が、我が国の医薬・医療分野において重要な位置を占め持続的に発展し続けるためには、時代が求める人材を育成し、社会に送り出していく必要があります。しかし、昨今の薬学部を取り巻く環境は今まで経験をしたことのない厳しいものとなっています。出生率の低迷による18歳人口の減少、薬学系

大学の増加による競争激化、国からの経常費補助金の減少、さらに世界的なパンデミックによる劇的な日常の変化等々、多くの困難に取り囲まれる状況となっています。このような状況の中で本学が持続的な発展を遂げるためには、時代が求める人材像を踏まえながら「神戸薬科大学ならではの」の人材を育成することが重要であると考えます。神戸薬科大学が「選ばれる大学」として生き残るために、本学独自の教育と研究を実現する必要があります。さらに、本学の教育研究成果や大学の魅力を、内外に広く強く情報発信していくことも必要です。

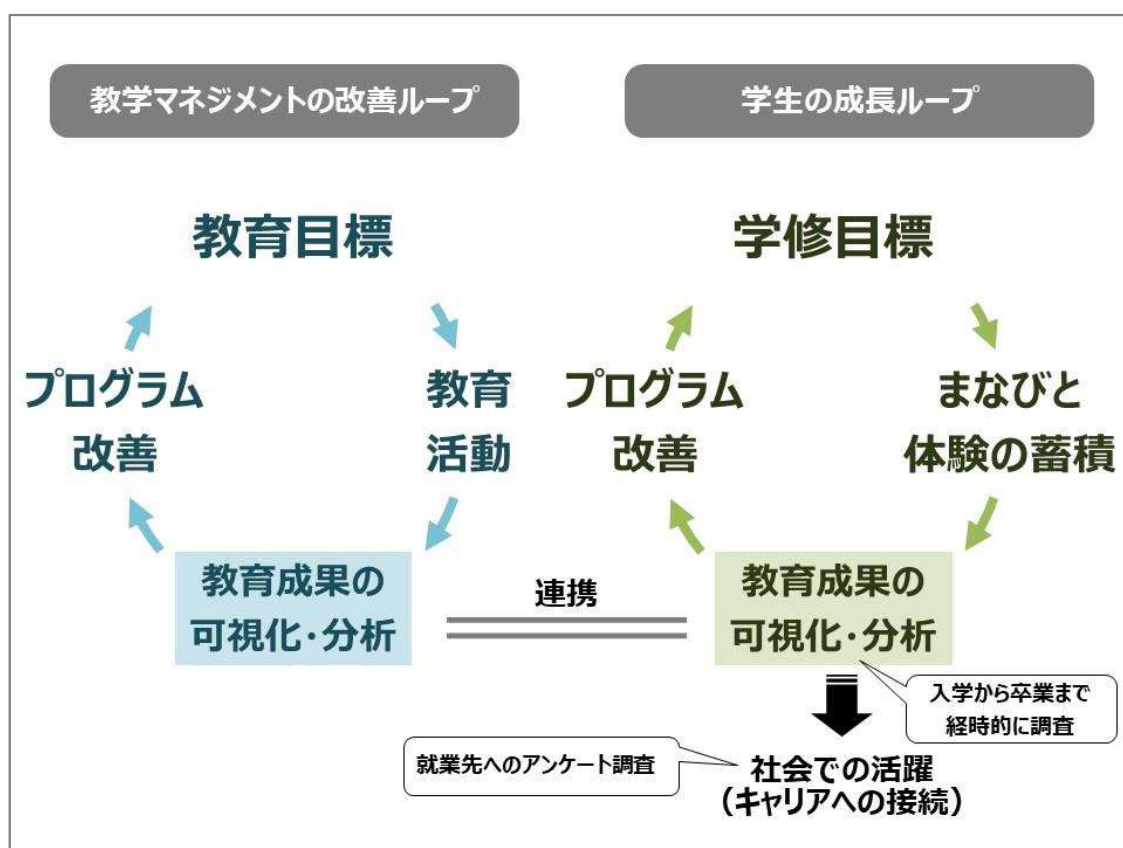
第3期中期計画では、「薬学の未来を牽引するモチベーションやポテンシャルをもった人材の育成」をビジョンとして掲げ、新たな教育カリキュラムを構築し、本年度より実施します。これまで本学では、「高度な薬学の知識を身に付けた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること」という理念を基軸として、特に研究活動を通じて教育の充実を図ってきました。新教育カリキュラムでは、研究活動を通じた教育がより効果的に奏功するように、その下地となる4つの基礎的能力「主体性」「行動力」「課題発見力」「答えのない課題に取り組む力」の養成に重点を置きます。これらの基礎的能力を身に付け、研究活動を通じて実践力を鍛え上げた卒業生の社会における活躍が神戸薬科大学のブランドとなり、選ばれる大学としての価値を生み出すと考えられます。



新教育カリキュラムを特徴付ける科目として、①学力レベル別に分けた思考力育成型演習科目（ロジカル思考演習）、②基礎薬学と臨床をつなぐ演習科目（薬学的症例解析演習）、③関連するテーマに沿って学年縦断的に進行する一貫性をもった学生実習があります。こ

これらの科目は学年の進行に合わせて順次性をもって実施され、体系的で教育効果の高いカリキュラム編成となっています。このような教育カリキュラムは、総合教育研究センター・統括部門を中心に、全学の教職員が協働で推進します。それにより、教科をまたいだ連携や基礎系と臨床系の融合を図ることができ、諸学問領域の統合を通じて創造的な教育の場を構築することができると思っています。大学院においては、薬剤師レジデント制度を活用した本学独自の病院研修型社会人大学院博士課程をつくり、研究マインドをもった薬学のエキスパートの養成に努め、薬剤師の未来像を開拓していきます。さらに、教育の場を充実させるために、キャンパス整備に着手しています。このような取り組みを通じて、多面的かつ論理的に思考する力を養い、課題発見力を高め、医療界の各領域でリーダーとなり変革を起こすことができる人材の輩出を可能とする大学づくりを目指します。

本学が掲げる教育・研究プログラムの目標を成し遂げ、教育研究の質的向上を図るために「教学マネジメントの改善ループ」と「学生の成長ループ」を構築し、教育研究に関するPDCAサイクルを確立します。PDCAサイクルを戦略的に遂行するために、IR機能の充実が重要です。総合教育研究センター・統括部門にIR機能をもたせ、探索的な分析を繰り返すことで改善の基礎となる教育的エビデンスを抽出し、これを基盤としてPDCAサイクルを回すことで、継続的に教育研究の質を管理します。さらに、状況に応じて、的確なステークホルダーへの意見聴取や外部評価なども取り入れ、教育研究の向上に資する質保証システムの構築を目指します。



本学では「教育と研究の両立」を両輪とした大学教育を目指しています。研究活動においては、社会課題の解決を目的とする共通の研究テーマ「老化または疾患メカニズムの解明と疾患の診断・治療法の開発」を設定し、社会にインパクトをもたらす研究に全学をあげて取り組むことで神戸薬科大学の研究力を社会にアピールし、本学の存在意義を高めます。また、研究成果を教育へ反映させることで大学の価値向上に努めます。

第3期中期計画の実施には、中心となる担当部門や担当者を選任することが重要でありますが、全教職員が共通のビジョンをもち、この実現のために有機的なつながりをもって問題解決に取り組むことが必要不可欠です。教職協働で組織的な改善を行うために、部門ごとのPDCAサイクルによって得られた知識と経験を全学ワークショップで共有し、教育・学修の改革の推進に当たります。

以上の目標を設定し、第3期中期計画で取り組む計画を、以下に列举します。

【第3期中期計画 細目】

(ア) 大学の理念に基づき育成する具体的な人材像とこれを実現する教育目標

- ・主体性、行動力、課題発見力、答えのない課題に取り組む力を兼ね備えた人材の育成
- ・問題発見能力、思考力、行動力を活用し薬学の未来を牽引する人材の育成
- ・基礎から応用までを主体的に考える教育
- ・「良い研究が良い教育を生む」の信念のもと、研究支援組織の整備

(イ) 教育改革の具体策と実現見通し

- ・思考力育成（課題発見能力、問題解決能力、文理融合型学習）型教育の開発
- ・成績下位者及び上位者の教育方策の開発
- ・順次性のある体系的なカリキュラムの構築
- ・新カリキュラムの検証
- ・国家試験合格率向上への取り組み
（目標：ストレート卒業率 90%、ストレート合格率 80%）
- ・FD研修の定期的な実施
- ・教育方法及び教育の成果等に関する調査及び分析

(ウ) 経営・ガバナンス強化策

- ・「学校法人神戸薬科大学寄附行為」の改正
- ・不正防止システムのチェック機能強化
- ・内部監査の充実

- ・大学ブランド力の強化
 - ・大学基準協会及び薬学教育評価機構の第三者評価受審
 - ・スタッフの資質向上、ハラスメント防止、IT 化推進、働き方改革のための定期的な SD の実施
- (エ) 法人・教学部門双方の積極的な情報公開
- ・情報発信ツールとしてのホームページリニューアル
 - ・インターネット、新聞、テレビ、ラジオ等あらゆる媒体を使った広報展開
- (オ) 財政基盤の安定化策
- ・外部資金獲得の強化
 - ・適正な予算の作成と執行
 - ・計画的な第 2 号基本金引当特定資産、研究充実準備積立金の積立・取崩
- (カ) 入学定員確保策
- ・入試制度の継続的な見直し
 - ・入試広報の強化
 - ・特待生制度の活用並びに検証及び改善
 - ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定高等学校連携
 - ・病院研修型社会人大学院博士課程の新設
- (キ) 教育環境整備計画
- ・SDGs を意識したキャンパス整備の推進
 - ・防災管理センター整備
 - ・バリアフリー化の推進
- (ク) グローバル化、ICT 化
- ・米国、東南アジアの国々とオフライン、オンラインでの交流実現
 - ・教育研究活動の高度化を支える情報基盤整備
 - ・近未来型図書館の構築
- (ケ) 計画実現のための PDCA 体制
- ・2021 年度に定めた「内部質保証基本方針」の学内共有
 - ・2021 年度に定めた「内部質保証関連図」組織体制に基づく PDCA 実施
 - ・教育 IR のデータ収集（2022 年～）、分析（2024 年～）、活用（2025 年～）
 - ・研究 IR のデータ収集（2023 年～）、分析（2025 年～）、活用（2026 年～）

【神戸薬科大学 大学の理念、目的、3つのポリシー】

< 大学の理念 >

「神戸薬科大学の理念」

社会に大きく開かれた大学であることを意識し、創立以来の伝統である教育と研究の両立を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること、さらに地域の医療と環境問題に目を向けて健康の維持・増進にも貢献できる拠点となること。

< 目 的 >

「神戸薬科大学学則」(抜粋)

第1章 総則

(目的)

第1条 神戸薬科大学学則(以下「本学則」という)は、神戸薬科大学(以下「本学」という)が、教育基本法(平成18年法律第120号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に定めるところにより、高い教養と専門的能力を培うことによって、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身につけた薬剤師並びに教育・研究者を育成すること、さらに医療と薬事衛生の向上に貢献することを目的とする。

「神戸薬科大学大学院学則」(抜粋)

第1章 総則

(設置)

第1条 神戸薬科大学(以下「本学」という)に大学院(以下「本大学院」という)を設置する。

(目的)

第2条 本大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展及び国民の医療と健康の維持増進に寄与することを目的とする。

< 3つのポリシー（薬学部） >

薬学部

「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」

所定の単位を修得し、薬剤師に必要な以下に掲げる知識、技能、態度を備えた学生の卒業を認め、「学士（薬学）」の学位を授与する。

1. 医療を担う薬の専門家として相応しい薬学に関する十分な知識、技能を有すること。
2. 薬学・医療の進歩と改善に貢献できる科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力を有すること。
3. 医療人として相応しい倫理観と使命感を有し、患者や生活者の立場に立って行動できること。
4. 医療人に必要なコミュニケーション力を有すること。
5. 医療人としての活動に必要な英語力を有し、グローバル化に対応した国際感覚を有すること。
6. 地域の医療、環境衛生に貢献できる幅広い知識と見識を有すること。
7. 生涯にわたって自己研鑽をし続ける能力と意欲を有すること。

「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」

本学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づいて、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。

本学の教育課程では、その授業科目を基礎教育科目、教養教育科目及び専門教育科目に分ける。各授業科目は、必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

全ての授業科目に GIO（一般目標）と複数の SBOs（到達目標）を定める。これらの SBOs を達成することにより GIO に到達し、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を実現する。

- ・幅広い視野を身につけるための教養教育科目、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した薬学基礎系科目及び医療系科目を系統的に編成し、実施する。
- ・医療人としての倫理観と使命感を育成し、患者・生活者本位の視点を身につけるための科目を編成し、実施する。
- ・国際化に対応できる人材の養成を図るため、6年間を通じて英語を学べる環境を構築するとともに、医療、薬学に係る英語科目を編成し、実施する。
- ・地域の保健や医療に貢献できる知識と実践的能力を養成し、近隣大学や地域の医療機関との連携に基づくチーム医療教育を充実し、実施する。

- ・研究マインドを涵養し、生涯にわたって自己研鑽を続け、後進を育成する意欲と態度を有する人材の養成を図るため、薬学臨床科目、薬学研究科目を編成し、実施する。
- ・生涯学習に対する意欲を醸成するために、薬剤師生涯研修事業を取り入れるなど、特色ある薬学教育アドバンスト科目を編成し、実施する。
- ・本学独自科目をシラバスに明記し、履修モデルをもとに目指すキャリアを明確にする。
- ・高等学校から大学への円滑な接続ができるよう、初年次教育を充実させ、習熟度に配慮したクラス編成を取り入れた科目を編成し、実施する。
- ・科学的思考力、課題発見能力、問題解決能力及びコミュニケーションスキルの育成を図るため、PBL や SGD などのアクティブ・ラーニングを取り入れた少人数教育科目や統合教育科目を編成し、実施する。
- ・ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げる薬剤師に必要な知識、技能、態度を評価する。
 - ①「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学独自の科目の評価
 - ②実務実習の評価
 - ③卒業研究の評価

「アドミッション・ポリシー（入学生像）」

本学では、その理念、教育目標、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）のもと、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、社会に貢献するために高度な薬学の知識と技能を修得できる資質と協働性を持った、次のような人を求めています。

求める人物像

1. 自然科学を深く学ぶ意欲と能力を有している人物
2. 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得している人物
3. 本学での学習を通してこれからの社会で通用する実力及び医療人に必要なコミュニケーション力を身につけ、将来、薬学、医療、及び関連する分野で活躍したいという強い意志と意欲を持つ人物

求める人物像における具体的な項目について記載し、このような入学者を適正に選抜するため多様な選抜方法を実施します。

関心・意欲・態度・探究心

自然科学（特に薬学及び関連分野）に強い関心と学ぶ意欲を持ち、生命・健康・医療に関する諸問題に対して探究心を身に付け、活躍、貢献したいという意志を持つ人物

知識・教養

薬学の専門分野を学ぶために、入学後の学修に必要な理科、数学に加え、英語等の基礎学力を有している人物

思考力・判断力

これまでの知識をもとに、思考を深めながら適切に判断できる人物

表現力・コミュニケーション力

自分が伝えたいことを相手に表現できるだけでなく、相手の表現を正しく理解し、コミュニケーションできる人物

協働性

問題解決のために、いろいろな分野の人と協力して活動できる人物

* 高等学校で学ぶべき具体的な内容

(試験科目より)

理科「化学基礎・化学」「生物」「物理」の基礎的な知識と科学的に探究する姿勢

数学「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」の基礎的な知識と論理的思考力

英語「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション力・論理的思考力

(試験科目以外)

国語 様々な文章の読解力と自分の伝えたいことを表現できる基礎的な文章力

公民倫理における基礎的な内容の理解

特別活動及び課外活動等を通じた自主性、協調的な態度や思いやりと奉仕の心

< 3つのポリシー（大学院・博士課程） >

大学院・博士課程（4年制）薬学研究科薬学専攻

「ディプロマ・ポリシー」

神戸薬科大学の理念に基づき、講義、演習、課題研究等を通じて以下に掲げる高度な専門知識と研究能力を身につけた上で、神戸薬科大学大学院学則に定める修了要件を満たした学生に博士（薬学）の学位を授与する。また、博士（薬学）の学位は、本学に学位申請論文を提出してその審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者にも授与する。

1. 薬学に関連する課題解決を目指すための高度な専門知識を修得し、先端的な研究を実践できる能力を身につけて、薬学研究を行うことができること。
2. 国際的視点から薬学専門領域の研究動向を把握した論文作成能力及びコミュニケーション能力を身につけていること。
3. 高い倫理観と生涯にわたる自己研鑽の重要性を理解して、医療に関する課題を発見し、解決に向けて対応する能力が培われていること。

「カリキュラム・ポリシー」

講義、演習、課題研究等を適切に組み合わせたカリキュラムを編成し、実施する。

全ての授業科目に GIO（一般目標）と複数の SBOs（到達目標）を定める。これらの SBOs を達成することにより GIO に到達し、ディプロマ・ポリシーを実現する。

- ・ 薬学研究を遂行するための基盤として、英語論文の作成能力や研究者としての倫理観を育成するための必修講義科目を設置し、実施する。
- ・ 薬学専門領域の研究動向や薬学に関連する課題解決を目指すための高度な専門知識を修得するための講義科目を編成し、実施する。
- ・ 論理的思考力、課題発見能力、外国語によるコミュニケーション能力の育成を図るため、演習科目を設置し、実施する。
- ・ 薬学研究者としての課題解決能力を養成するため、課題研究科目を重点的に配置し、実施する。また総説講演にて、最新の研究動向及び研究成果を発表することにより、プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を養成するとともに、複数の教員により進捗状況やコミュニケーション能力を確認し、指導する。
- ・ 臨床薬学コースを選択した学生に対しては、医療現場等で課題を発見し、解決する能力を培うため、臨床研修科目を設置し、実施する。
- ・ 薬学における最新の動向を学ぼうとする意欲の高い社会人等が、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲を醸成するため、昼夜開講制の講義科目を設置し、実施する。

「アドミッション・ポリシー」

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬学専攻博士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

1. 医療人としての倫理性を備え、臨床薬学業務を担う熱意を持つとともに、確かで高度な専門知識に裏づけられた技能を持つことに意欲の高い人物
2. チーム医療の現場において薬剤師として活躍できる人物
3. 創薬・育薬を担う熱意を持つとともに、人間性豊かで医薬品開発などの国際的舞台で活躍を目指す意欲の高い人物

＜ 3つのポリシー（大学院・修士課程） ＞

大学院・修士課程（2年制）薬学研究科薬科学専攻

「ディプロマ・ポリシー」

神戸薬科大学の理念に基づき、講義、演習、課題研究を通じて以下に掲げる専門知識と研究能力を身につけた上で、神戸薬科大学大学院学則に定める修了要件を満たした学生に修士（薬科学）の学位を授与する。

1. 最新の創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門知識の修得により、薬科学研究を遂行できる基盤的能力を身につけていること。
2. 生涯にわたる自己研鑽の重要性を理解し、幅広い視野に立って薬科学領域の課題を発見する能力及びその課題解決のための基盤的能力が培われていること。

「カリキュラム・ポリシー」

講義、演習、課題研究を適切に組み合わせたカリキュラムを編成し、実施する。

全ての授業科目に GIO（一般目標）と複数の SBOs（到達目標）を定める。これらの SBOs を達成することにより GIO に到達し、ディプロマ・ポリシーを実現する。

- ・ 薬科学研究を遂行するための基盤を育成する講義科目を設置し、実施する。
- ・ 最新の創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門知識を修得するための講義科目を編成し、実施する。
- ・ 科学的思考力、課題発見能力、コミュニケーションスキルの育成を図るため、演習科目を設置し、実施する。

- ・ 薬科学研究者としての課題解決能力を養成するため、課題研究科目を重点的に配置し、実施する。また研究成果発表会にて研究の進捗を報告することにより、プレゼンテーション能力を養成するとともに、複数の教員により進捗状況を確認し、指導する。
- ・ 薬学における最新の動向を学ぼうとする意欲の高い社会人等が、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲を醸成するため、昼夜開講制の講義科目を設置し、実施する。

「アドミッション・ポリシー」

神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬科学専攻修士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。

1. 4年制の薬学部を卒業し、より高度な創薬科学、生命科学、あるいは臨床科学の専門的知識や研究能力を持つ薬科学研究者を目指す人物
2. 薬学部以外の出身者で、それぞれの専門的知識に本学が有する創薬科学研究の知識・技術を融合させた薬科学研究者を目指す人物